

小規模崖線村落における地域資源としての坂路地空間の整備

[illegible]

石積み 欄干の装束 束石・土せ



直線形状の

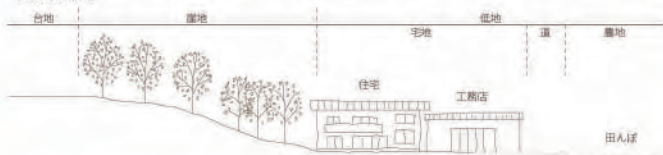


舗装率が高く、緑が少ない



舗装率が低く、緑が多い

手付かずと思われた自然は、河川流域の低湿地に広がる農地と、谷地上の数道駅周辺から広がる河外地域との両方にある多様な湿地で、その一部は戦国時代の古い集落を残す地域であることがわかった。



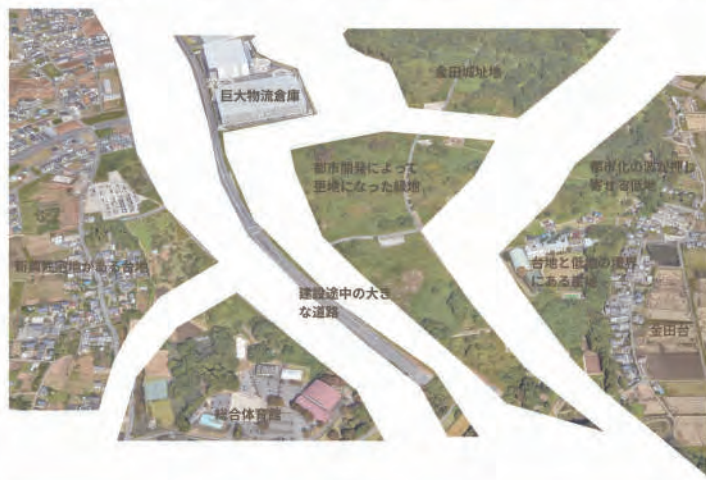
中学校

台地と低地の境界にある崖地

一人々が出会う公共路

一土と水の農路

この地域の暮らしとしては、土の恵みをつくり、土に培われて農を継承して生活とする人々と、販路として会社で働きながら家を継承する人。新しい町形に入居して市街地で働く人が住み、電気や水供給が当たり、所有が不平等で割れているが、顔ぶれだけでなく、かつては地域的の空気がつくられたり、一度生えらむ分岐点の都市設計がつけられたりしていたこと、今でも環境保全団体の活動が盛んがられていることがあった。



地動画にスチールの異なる場づくりの断面がみられることがわかった。これらの整理により、地の自然と意図的断面によって、官公と民地での暮らしや空間の納めが分類されていることがわかった。そこで面で分けられた、福祉と自然環境、神社と公民館、学校と農地をつなぐ3つの路において、土との関わりを促すような施設を創設することとした。

		大きな 土木的穴	建築的「中」	農耕小川
	台地			
		建築物中の運動	竪穴式住居	
	畑地			
地形		道	神社 登山タイニーハウス 漁船 石橋の階段、防空壕	溝を運ぶ集約的な保存方法 古い
	低地			
	宅地	工場・生産	集約のパイプライン アース・ブリックス	
	農地			
		用水路		経路 浅瀬掘り出し ビニールハウス

— 金田にある仕込み
一本針金の使法

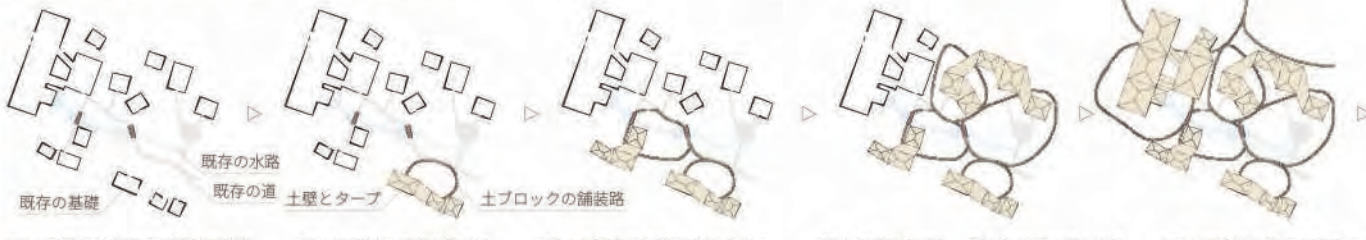
敷地1 歴史と生態の学び路

この学び路は、広範囲に面的に広がる堀や施設跡などの地域資源を、整備の進んだところから、円環状の土ブロックの舗装路で、順次つないでいく計画である。

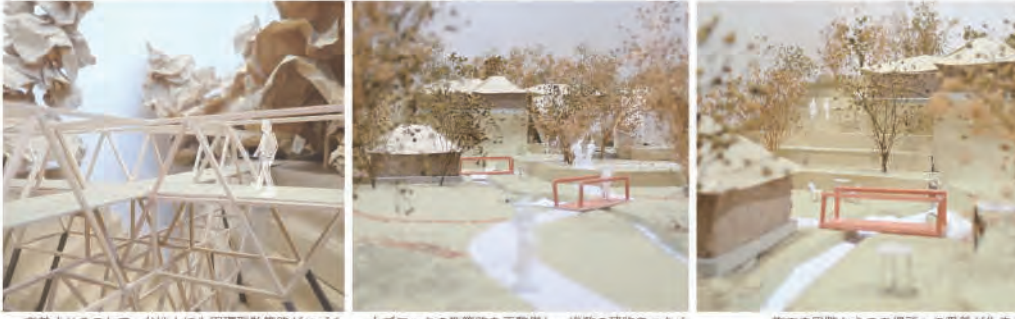
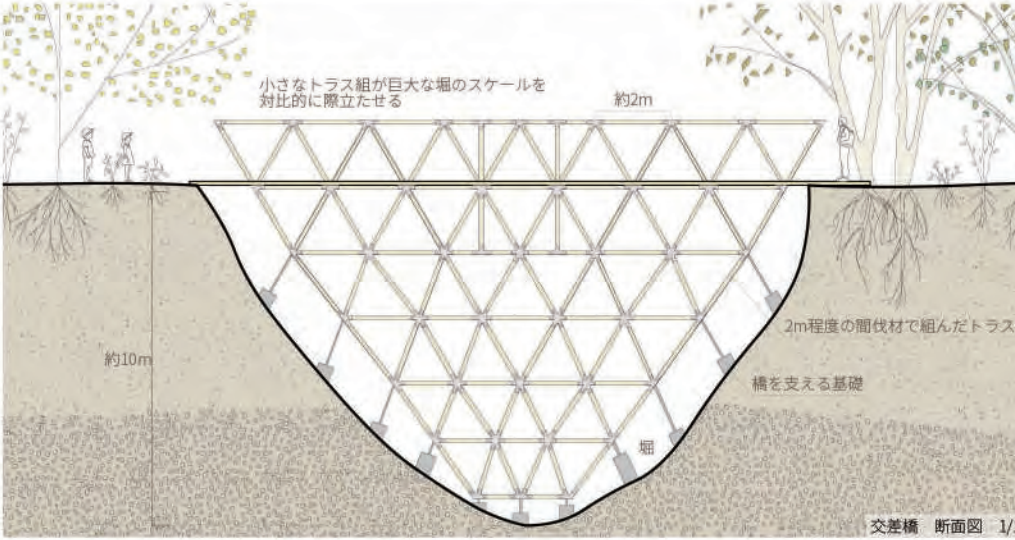
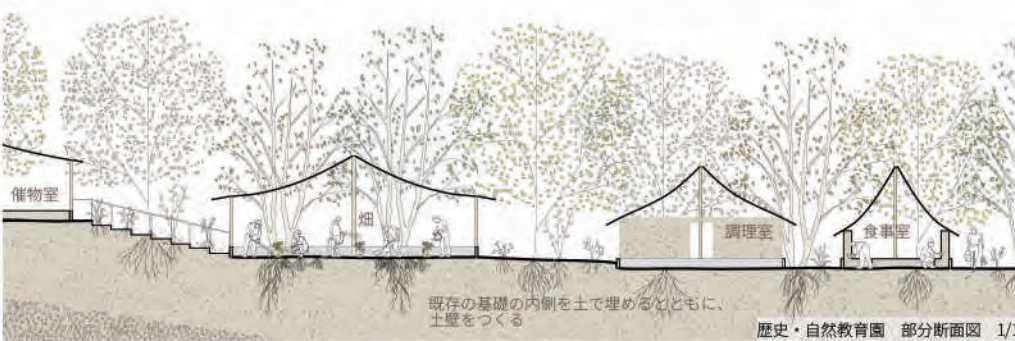
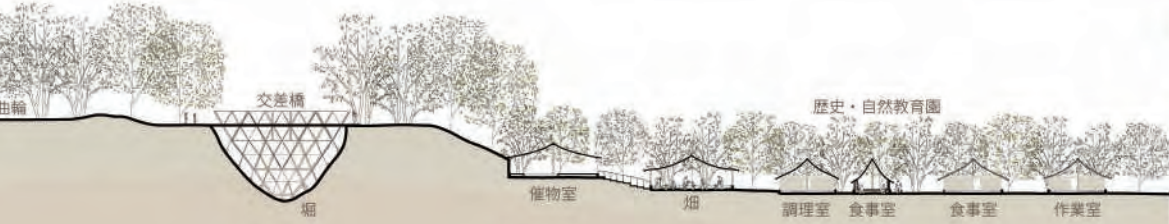
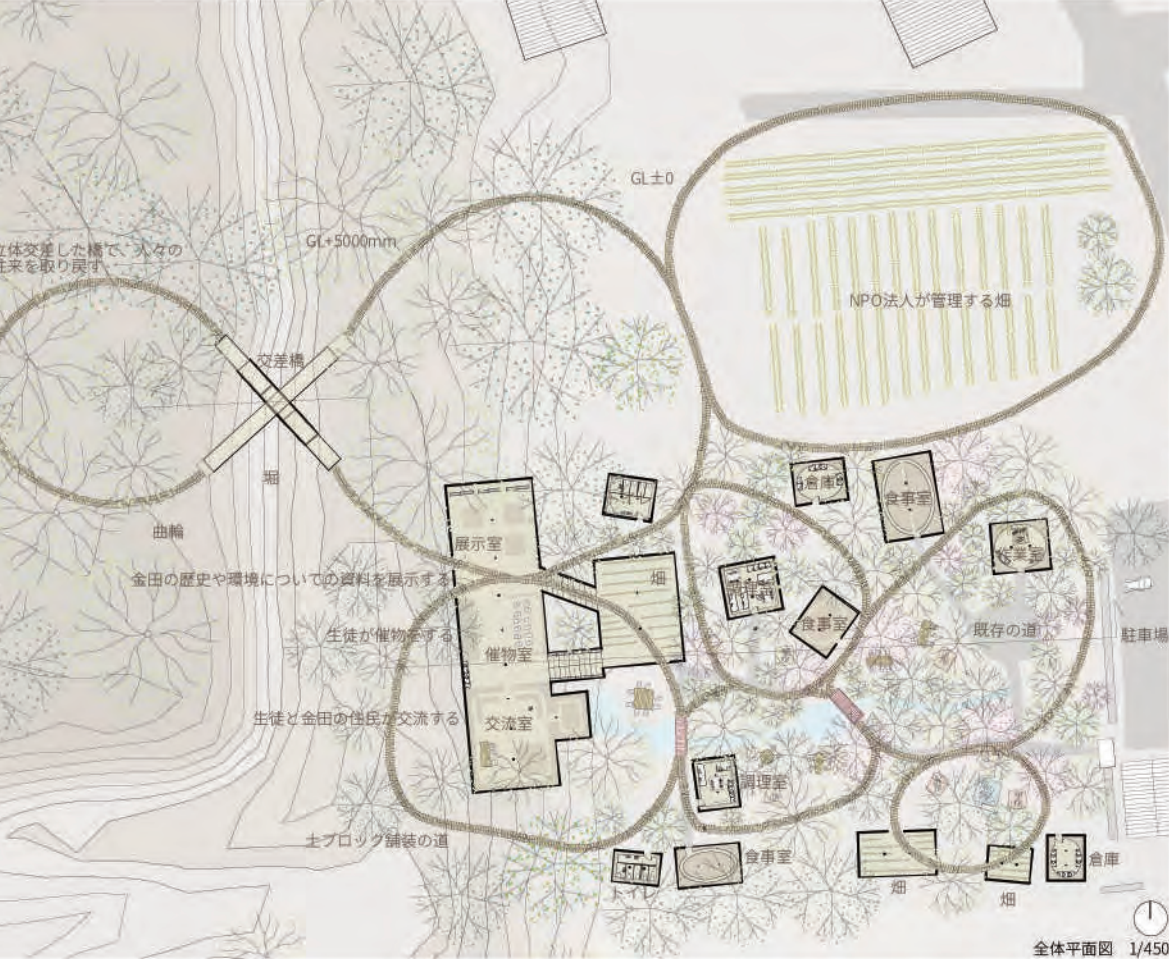


堀 NPO法人の畑とパーゴラ 分棟型宿泊施設の廃墟

土を使った建設の期を経た展開 —歴史・自然教育園—

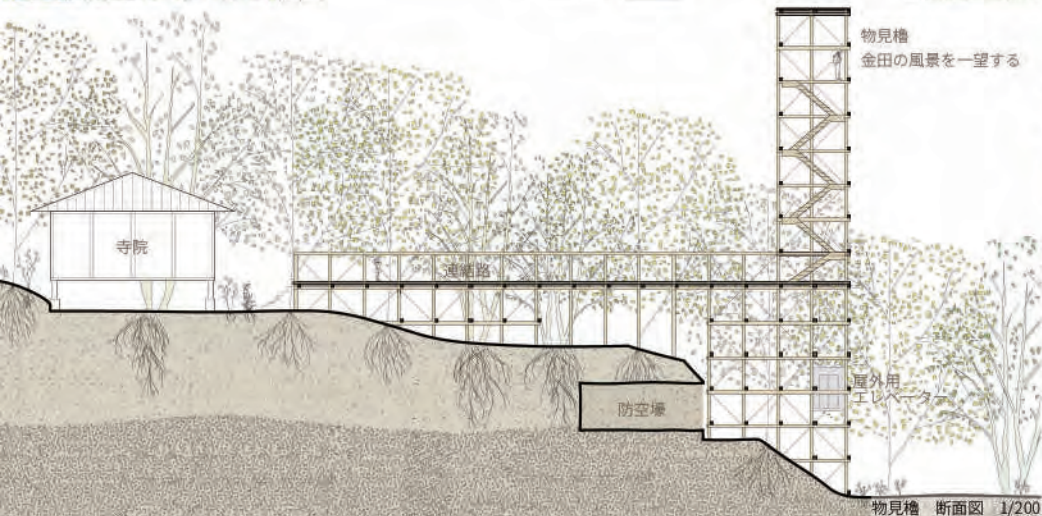


0期：基礎だけが残る分棟型施設跡 1期：段階的に整備を進める 2期：地域住民の交流が生まれる 3期：来訪者が訪れ、新たな交流の場となる 4期：場所への愛着が生まれる

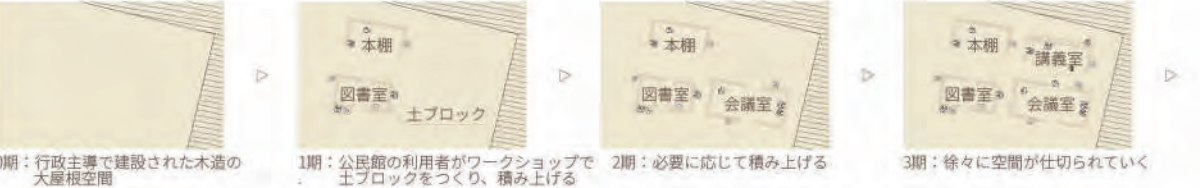


敷地2 人々が会える公共路

この公共路は、台地にある中学校と寺院、崖地の石積み階段と防空壕、低地の調整池脇の集会所といった地域資源を、それぞれがもつ微妙に傾いた軸線を束ねて、直線的に上下をつなぐ計画である。



土を使った建設の期を経た展開 一土の公民館一



敷地3 土と水の農路

この農路は、分断されている台地と低地を、その間にある荒れた崖地を、棚田のように開墾することで徐々につないでいく計画である。



中学校のプール



田んぼと畑



ビニールハウス

土を使った建設の期を経た展開 ―農作業場―



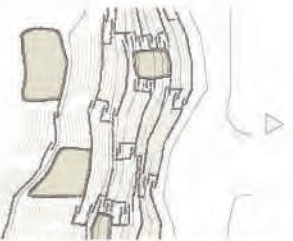
0期：整備されていない崖地



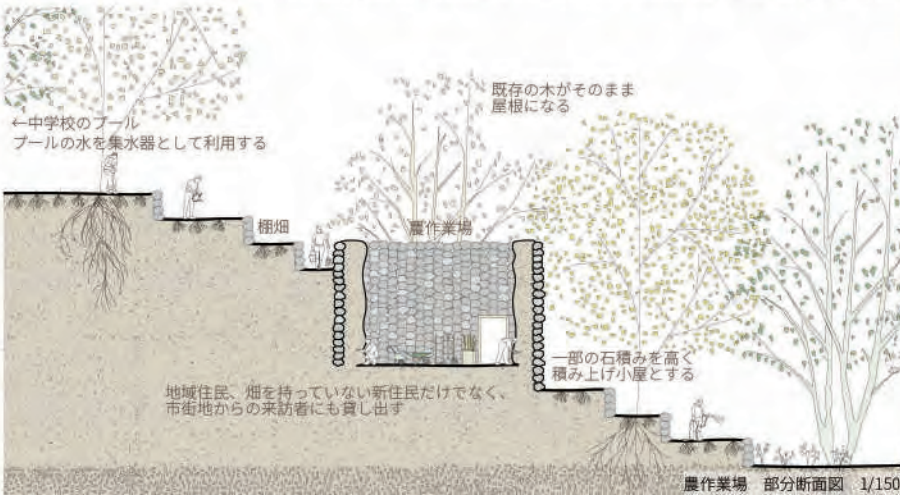
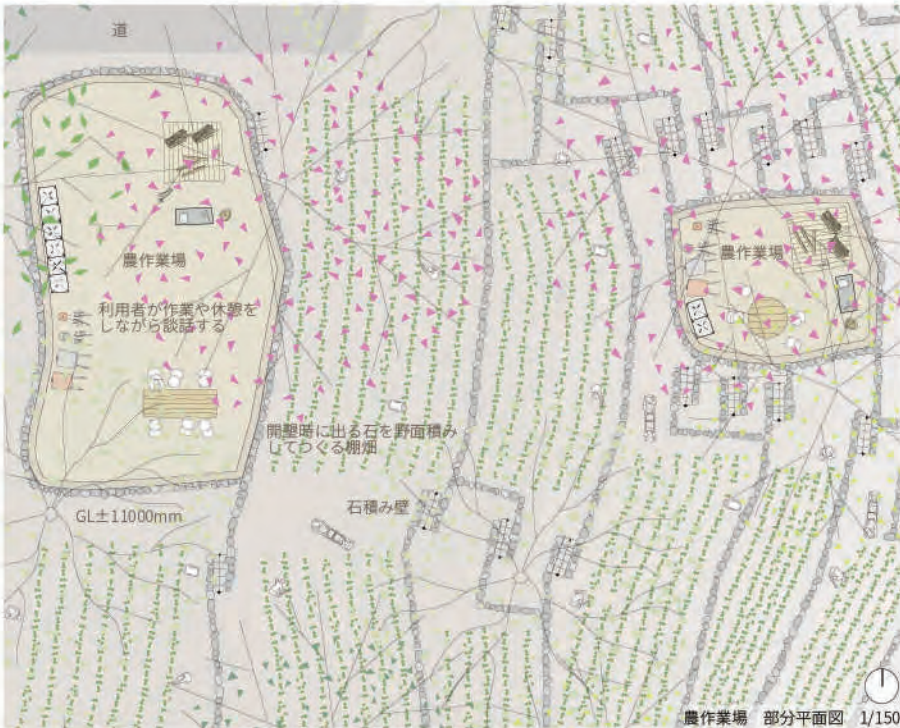
1期：開墾して石を積み、畑をつくる



2期：必要に応じて畑を増やし、石を積み上げて作業場をつくる



3期：新住民や来訪者に貸し出すことで、農を通したコミュニティが地域に根付く



既存の木を避けながら、棚畑の平面形をそのまま建ち上げて空間化する



作業場内では、利用者が農作業をしながら交流を深める



協力して石を積むことで、住民同士の農を通したコミュニティが根付いている